

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般 - 01

学校名・団体名	札幌市立澄川南小学校
HPアドレス	http://www.sumikawaminami-e.sapporo-c.ed.jp/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	すみなみ環境プロジェクト ～森と生きる子どもたち～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校では持続可能な社会の構築という視点から、「食育」「環境保全」「リサイクル」の三つのテーマをもとに、各学年で環境教育に取り組んできている。その成果として、普段の生活の中で物や自然を大切にしようとする態度が見られるようになってきた。一方で、自然に関わる体験の場が少ないため、学んだことを実践する機会が限られるという課題も浮き彫りになってきており、直接的かつ継続的な体験活動を一層充実させていく必要があると考えた。</p> <p>このような背景から、昨年度より校区内より至近の「澄川都市環境林」に年間を通して関わる学習活動を全学年において取り組むことで、本校における環境教育の一層の充実を図り、自然に対する興味・関心を高め自ら行動化できる活動を考え実践していく態度と、ボランティアとの関わりで自然と人との共存や森林保全に取り組んでいる人々の工夫や苦労を学ぶ主体的態度の育成を目的として実践に取り組むこととした。</p>	

(1) 総合的な学習の時間「すみなみ環境プロジェクト」

今年度は、3年生・4年生・6年生を主な対象として、四季を通して森の自然環境や生態系に触れる学習活動を総合的な学習の時間の年間計画に位置付けて実施した。

①春の森林探検 (6月：3年生・4年生)

自分たちが通う校区の約半分の面積を森林が占めているという事実を知った子どもたちは、「どんなところかな。」「調べてみたいな。」という願いから、実際に春の森を散策した。初めて訪れた森では、森林ボランティア協会の方々の案内で、芽吹いたばかりの若芽や若葉を見たり、触ったり、臭いを嗅いだりするなど、五感を使って多くの発見をし、「もっと調べてみたいな。」「また来たいな。」「この葉っぱは、この後どうなるのかな。」と、学習への意欲を高めることができた。



②夏の森林探検 (7月：3年生)

前回の散策から1か月。子どもたちは、グループごとに春と夏の違いを見付けようと思い思いに草木を観察した。春には見られなかった花や虫などをたくさん発見し、写真に撮って後日ワークシートに記録する活動を行った。セミの抜け殻や尺取り虫を実際に手に取り、感触を楽しむ子どもたちの表情は真剣そのものであった。「樹木園」というエリアでは、植樹されている標本木を観察し、秋の「マイツリー選定」に向けて、自分のお気に入りの木を探す活動を行った。

③「すみなみマイツリー活動」(9月～11月：3年生)

この活動は、子どもたちが在学中に継続的に森と関わり、木について学ぶ機会をもつことで、自然に対する愛着や理解を育むことをねらい、「すみなみマイツリー活動」として中心的な学習活動に位置付けたものである。

まず、4名ずつ12班に分かれてマイツリーを選定し、次に、選んだ木の「葉」を持ち帰り、図鑑などを参考にして樹名や特徴を調べ、「樹名板」作りをした。完成したものは、自分たちの木の側に立てた支柱に取り付け、これから卒業するまで観察を続けていくことになる。

この学習は、子どもたちにとって大変印象深い活動となり、「もっと自分の木について調べてみたいな。」「来年の春はどうなっているかな。」という次への期待や意欲をもたせることができた。



④「炭焼き体験」「卒業記念植樹」(11月：6年生)

炭焼き体験では、自分で集めた木の実などを缶に入れて、焚き火の中で焼き、化粧炭を作った。出来上がった炭を見て、「色が変わったね。」「きれいに残っているよ。」と驚きの声をあげていた。

卒業記念植樹では、まず第1段階として植樹する場所の下草刈りの作業を体験した。下草刈りが樹木の生長に必要な明るさを確保するために必要なことを知った子どもたちは、実際に草刈り鎌を使って、笹などの雑草刈りに取り組んだ。「地味な仕事だけど、大変な作業だ。」と思った以上に力が必要なことを実感していた。

次に、下草刈りを終えた場所に穴を掘り、「イタヤカエデ」「ナナカマド」「エゾヤマザクラ」の3種類の樹木を植樹した。



子どもたちは、苗木の根を傷つけないように丁寧に作業を行い、「無事に大きく育ってくれるかな。」「花を咲かせるのはいつ頃になるかな。」と期待に胸を膨らませていた。

今後は、卒業後も自分たちが植えた木の様子を観察するために「森」を訪れて、自分たちの住む地域の自然に愛着を持ち続けていくことを期待している。



⑤「かんじきづくり体験」「スノーシュー体験」(12月～2月: 3・4・6年生)

かんじきづくり体験では、森林ボランティア協会の方々に協力をいただき、森から集めてきたコクワの蔓を材料にして、昔ながらの「手作りかんじき」を製作した。

あらかじめ部品となる蔓を準備していただき、製作当日は子どもたちの手で組み立てる作業を行った。

スノーシュー体験では、降り積もった森の雪を踏みしめながら、マイツリーの様子を観察したり、森林ボランティア協会の方々の案内で、雪面に残った「動物の足跡探し」をしたりした。また、自分たちで製作した「かんじき」も実際に履いて歩いてみた。スノーシューと同様に埋まることなく歩くことができることに驚きながら、昔の人々の知恵にあらためて関心する様子が見られた。

今後も、どちらの活動も冬ならではの学習活動として位置付けていきたい。



(2) 成果

本活動は、NPO法人「森林ボランティア協会」の全面的な協力のもとで実現した取組である。子どもたちは、自分たちの身近なところで「森林保全」に取り組んでいる人々がいることを知り、一緒に様々な活動を体験する中で、貴重な自然を守るための工夫や苦労を学ぶことができた。人との関わりの中で札幌の豊かな自然に触れ、自分たちの住む地域の素晴らしさを実感させることができたと考える。

子どもに自己評価を実施したところ、「森の学習活動は楽しかったですか。」の質問に対して、肯定的に答えた子どもの割合が92%となり、自然に対する関心・意欲・態度の高まりが顕著に見られた。また、本市の「学習に関するアンケート」の指標である「札幌には好きな場所やものがある。」に対して肯定的に答えた子どもの割合が約90%となり、身近な自然環境への愛着が高まってきたことが分かった。森の豊かな自然に触れながら、体験学習に取り組むことは、子どもの感性を育む一助となった。

(3) 課題

子どもたちからは、「森の植物や動物について、もっと詳しく知りたい。」「自分たちのマイツリーはどうなっていくのか。」と今後への期待感をもったり、さらに一歩踏み込んで学習を試みたいという意欲をもったりしている意見が多く出てきた。

今後は今年度の成果を生かし、子どもの「もっと」を生かした活動プログラムの開発を行うなど、教育課程の充実を図っていきたい。

